

**第3期ロジスティクス環境会議
第7回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会 議事録**

I. 日 時：2009年8月4日（火） 15：00～17：00

II. 場 所：東京・港区 くるまプラザ 第2、3会議室

III. 出席者：24名

IV. 内 容：

- 1) 事例編の取りまとめイメージについて
- 2) 今後の進め方について

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、山本委員長の司会のもと、以下のとおり議事が進められた。

VI. 報 告

1) これまでの経過と本日の検討事項について

事務局より、資料1-1に基づき、これまでの経過と本日の検討事項について説明がなされた。続いて、資料1-2、1-3に基づき、事例編の分類変更について説明がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

委員長：最終的には、事例編の前に資料1-2、1-3を挿入するイメージでよいか教えていただきたい。

事務局：ご指摘いただいた形で取りまとめる予定である。

VII. 議 事

1) 事例編の取りまとめイメージについて

(1) アウトプットの取りまとめ方針について

事務局より、資料2に基づき、アウトプットの取りまとめ方針（案）について説明がなされ、了承された。

(2) 事例編 設問Iの取りまとめイメージについて

事務局より、資料3-1、3-2に基づき、事例編 設問Iの取りまとめイメージ（案）について説明がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

(追加調査する範囲について)

委 員：追加調査する範囲は、事例編の事例1の部分だけと考えるとよいのか教えていただきたい。

事務局：基本的には、事例1-1から事例3-12を範囲として考えている。

(資料3-2の3-1)の選択肢について)

委 員：取引条件の見直しを進める際に、発荷主との調整においては「営業部門」、着荷主との調整においては「購買部門」との協議・交渉が必要になると考えるが、資料3-2の3-1)にこれらの選択肢がないのが気になる。

事務局：資料3-2の3-1)は、“調整を実施する部門”に関する設問であり、“調整する相手先部門”についての設問ではない。相手先の把握も必要であるならば、別途設問を設けることを検討したい。

委 員：例えば、発荷主側で時間指定の見直し等を進めようと思っても、自社営業部門が、「サービ

スレベルを下げると売り上げが落ちる」という考えから、取組が進まないケースが多いと考える。

委員長：ご指摘いただいた内容を浮き彫りにするためにも、別途設問を設けることを検討したい。

委員：営業部門が調整を進めた場合に、どの選択肢を選べばよいか分かりにくいと考える。

(効果について)

委員：原案と比較すると、事務局案は分かりやすくなったと考える。さらに、CO₂削減効果に加えて、コスト削減効果が何らかの形で表現されていると、より説得力が出るのではないかと考える。

委員長：定性的な内容でもよいので、それらの情報が掲載できるとよいと考える。

委員：各企業においては、CO₂削減量よりも、「毎日配送から隔日配送への変更によって、トラックを何台分削減した」といったような把握をしていると思われる。イメージも掴み易いことから、これらの把握方法も検討してはどうかと考える。

委員：CO₂削減量を排出権の金額で換算する方法も一案ではないか。

委員長：CO₂、コストだけではなく、ご指摘いただいたような他の分かりやすい指標を用いることも検討したい。

委員：待ち時間削減効果、あるいは距離削減効果等をご回答いただき、それらを用いて事務局等でCO₂削減効果を算出するというやり方も一案ではないか。

(掲載順序等について)

委員：社内で改善を進める流れとしては、定期的な“気づき”の場があり、その中で問題を顕在化させ、解決方策の検討を図るという流れだと思う。しかしながら、資料3-2では冒頭に改善内容が掲載されていることから、分かりにくい印象を個人的に受ける。

事務局：ご指摘いただいたように、①時系列でまとめる方法、②資料3-2のように冒頭に改善内容を掲載する方法、といった双方のやり方が考えられるので、ぜひご意見をいただきたい。

委員長：追加調査実施後に、使いやすさ、分かりやすさの視点から、あらためて検討したい。

委員：1つの事例が見開き2ページにまとまっている方が、分かりやすいと考える。

委員長：項目数が多いため、どこまで対応できるか分からない。まずは各社の回答内容を同じレベルになるように集め、見やすさ等は次のステップで検討したい。

委員：現状では、資料1-2、1-3のような分類でよいと思うが、追加調査後にあらためて見直しが必要にだと考える。

委員：改善を進めるにあたり、どのようなことで苦勞して、どのように解決したかが分かるとより良いのではないか。

(ヒアリング調査について)

委員：設問の趣旨に沿った形での回答ができない、あるいは回答がしづらい部分もあると思うので、追加調査を実施し回答を収集した上で、ヒアリング調査を実施していただきたい。

委員長：追加調査の回答内容を事務局で確認いただき、必要に応じてヒアリング調査を実施し、各社の回答内容にできるだけズレがないようにまとめていただきたい。

事務局：実際に調査を実施してみないと分からない部分はあるが、各社の回答内容を同じレベルになるように努めたい。また、各社で使われている用語の定義等の詳細を確認するケースもあると思われるので、その際にご協力いただきたい。

(その他について)

委員：製品を購入し、輸送条件を定める主体と実際の納品先の主体が異なる場合、どちらを着荷主と考えればよいか教えていただきたい。

事務局：基本的には、輸送条件を定めている主体を着荷主と考えている。

事務局：本調査では、特段範囲を限定しておらず、事例編の中には、ご指摘いただいたような事例も含まれている。

委員長：ご指摘いただいたように、発荷主、着荷主が入り組んでいる事例については、事務局の方で、それらが分かるような表現の工夫も検討いただきたい。

【決定事項】

- ・本日の意見を踏まえて、事務局で修正案をまとめることとする。
- ・追加調査実施後にヒアリング調査を実施する。

(3) 事例編 設問Ⅱの取りまとめイメージについて

事務局より、資料4に基づき、事例編 設問Ⅱの取扱（案）について説明がなされた後、以下のような意見交換がなされ、了承された。

【主な意見】

副委員長：例えば、事例1-1、4-1は同様の内容であるが、事例1-1は実現できた事例、事例4-1は実現に至らなかった事例である。これらを両方並べて整理するというイメージでよいか教えていただきたい。

事務局：完全に併記するというよりは、実施できた事例をメインにまとめ、実現できなかったポイントを吹き出しのような形で紹介することを想定している。

2) 今後の進め方について

事務局より、資料5、参考資料2、3に基づき、今後の進め方について説明がなされた後、以下のような意見交換がなされた。

【主な意見】

委員：事例編の取りまとめについては、本日の議論を踏まえて、ある程度メドがたったと理解しているが、今後の調査結果を受けて、共通化・一般化を行い、最終的に当委員会としての総括をいかに行うかが重要だと考える。このあたりについても次回委員会あたりから検討した方がよいと考える。

委員長：ご指摘のとおりであり、追加調査結果を踏まえて議論をしていきたい。

委員：参考資料2、3に“合理性のない時間指定”とあるが、例えば加工食品卸が午前指定をしているのは、午後の出荷対応のためであり、“合理性がある時間指定”だと考えている。合理性のない時間指定への対策として、事例編の詳細化を進めてもあまり建設的ではないと個人的に考える。

委員：同じ午前指定をしていても、トラックの待ち時間ができるだけ短くなるように改善している例も事例編の中に含まれている。このような視点が重要だと考える。

副委員長：特積み事業者を利用する際に、特に着荷主側では納品時間が不安定であるという印象から、午前必着を指定するケースも多いと考える。これらに対して、特積み事業者側から情報提供していくことが必要だと個人的に考えている。

2) 今後のスケジュールについて

事務局より、資料6に基づき、今後のスケジュールについて説明がなされ、次回委員会を下記のとおり開催することとなった。なお、詳細については、事務局よりメールにて連絡することとなった。

＜第8回グリーン物流推進のための取引条件検討委員会＞

日時：2009年9月30日（水）15時～17時

会場：くるまプラザ 第2、3会議室

VIII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了し、山本委員長は閉会を宣した。

以上